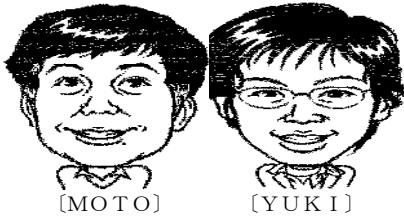


〔M. Y 旅日記〕

夫婦でブルゴーニュの運河クルーズ旅

M. Y



〔MOTO〕

〔YUKI〕

〔準備期間〕

- * 2011年6月29日 BS/TBSTV 放映の「極上クルーズ紀行：ブルゴーニュ運河/美しい村々を巡るクルーズ」観ながら夫婦で、何時か、季節のいい時期に「ヨーロッパ美しい村々を巡りワインを飲みながらの運河クルーズ旅」をしたいと話していると、最後の制作関係テロップに知人の名前が目に入る。興味をもち連絡、内容を聞く。
- * いくつかの某大手旅行会社に問い合わせをしたが、取り扱っていないとの返事であった。担当者から「リバークルーズ専門の旅行代理店＝オーシャンドリーム社」があることを聞き、問い合わせ先が「ブルゴーニュの運河クルーズ旅」の始まり。注：オーシャンドリーム社は、旅行代理店ではなく船会社の日本総代理店・日本地区代理店である。
- * 「オーシャンドリーム社」からパンフレットを取り寄せ、内容は、現地集合・現地解散の「ブルゴーニュの運河クルーズ旅行」であった。即、来年の季節の良い7月に決めて、日時、場所、旅費等を調べる。
- * 「個人旅行」、パリまで約13時間の旅、67歳を過ぎた年齢では厳しい旅になってしまう。・・・そうだ！ 航空運賃の削減、以前から貯めていた「JALマイレージポイント」使用でビジネス席、ゆったりヨーロッパ旅をすることにした。
- * 〔課題1〕：マイレージポイント使用のビジネス座席数は、限りがあるため、1年前から予約しなければ航空券確保が難しい状況。即、インターネットで申込みをし航空券確保後、オーシャンドリーム社に2013年7月中旬で「ブルゴーニュの運河クルーズ旅行」の予約をする。
- * オーシャンドリーム社への旅費支払いは、JALマイレージポイントをためるためにペイパル〔PayPal〕振り込み活用、運賃の削減の知恵を学ぶ。

〔出発〕

- * 2013年7月4日羽田空港からパリのシャルル、ドゴール空港へ、所要時間約13時間、豪華なビジネス座席〔美食を堪能後、しっかり足を伸ばせる寝心地のフルフラットシート〕・夢心地の時間〕であった。
- * 着陸後、シャルル、ドゴール空港からリムジンで、宿泊ホテル〔ホテル ヴァンドーム〕へ
- * 〔課題2〕：当日、宿泊ホテルから集合ホテル〔ウェストミンスターホテル〕への距離約100km・・・スーツケースを持って石畳の道を歩くには・・・タクシーでは近すぎる・・・さて困った？・・・ベルボーイに聞く・・・快くタクシーを呼んでくれて無事集合ホテルに到着
- * 〔課題3〕：さて困った・・・？ 集合ホテルのソファでスーツケースを持ち・・・「時間待ちか？」・・・ロビーを見回すと・・・荷物〔スーツケース〕を持ったままの人も見受けられる・・・家内がベルボーイに聞く・・・快く荷物を預かってくれて一安心
- * しばらくすると、迎いのドライバーが来て、「名前を呼ぶ」数人の夫婦〔外国人〕が立ち上がった。
- * 車に乗り、所要時間〔約4時間〕・長かった・・・乗船場所〔Venarey〕に到着、既に船〔BeII Epoque〕が停泊していた。
- * 木々に囲まれた静かな運河にカタログ通りの小さな船、「クルーたちが笑顔」でフレンドリーに迎えてくれる。

〔乗船〕

* 初日：車を降り、6人のクルー〔乗組員〕とゲスト4組8人＝計14人が乗船〔BeII Epoque：写真資料1〕7日間の運河の小型クルーズ船の旅。



* それぞれの部屋に案内される。一呼吸〔スーツケース整理・シャワーを浴び〕、休憩後

* 初日のディナーで、ゲスト4組〔アメリカ人夫婦・イギリス人夫婦・ノルウェー人夫婦・日本人夫婦〕が自己紹介をする。

* 私達は慣れない「片言の英語」を使い、家内が自己紹介。夕食時の会話は、外国の各夫婦共、ゆっくりとした優しい言葉〔英語〕で話をして頂き、緊張が解れ、楽しいひと時を過ごすことができました。

* 翌日から私達の名前を即、モト・ユキと呼ばれ、夕食時、アメリカ人夫婦の奥さん(キャロル)が、ディナーのテーブル席は、私が決める〔仕切〕と「モトは私の横・ユキは、〇〇」と仕切り役を買って出ました。初日から、とても「和気あいあい」の乗船仲間になりました。

・ 食事は、シェフが、吟味した新鮮な食材を毎日仕入れた美味しい料理と、搾りたてのオレンジ・地元のパンなど、を頂くことができました。

・ ラウンジには、常に、焼き立てのクッキー・果物が用意され、コーヒー・紅茶・ワイン・搾りたてのオレンジ等は、クルーに声をかけると直ぐに入れてくれる、快い「おもてなし」である。

* 私は、アルコール類(ワイン・シャンパン・ブランデー・日本酒・ウィスキー・ビール等)嗜む程度、家内は、日本人女性としては好きな方で「かなり飲める」・・・外国の各夫婦共々、いやはや・・・桁外れ！！酒豪(大酒飲み・しかも、ワイン何倍飲んでも、酔いません)・・・例：ノルウェー人夫婦は、ブランデー・ウィスキーをストレートで何杯も一気に昼間から飲む。強い・強い・日本人の酒好きユキ、足元にも及ばず・・・

* 運河の流れに沿って、静かに船は進む。青々とした空、空気が澄んで、日差しは暑い、デッキの parasol の中は、湿度が低く、さわやかで、日本の秋を思わせるすがすがしい場所。ノルウェー人夫婦は、気持ちよさそうに、上半身裸になり、日光を浴びながら、ワインを各夫婦共々〔写真資料2〕一日中！！楽しんで飲んでいました。



*日本の伝統工芸、箱根寄木細工〔Yoseki “Handicraft”〕の個人の秘密の箱＝からくり箱〔Himitsu-Bbako: Personal Secret Box〕をゲスト4組夫婦に「おみやげ」として贈り、とても喜んで頂けました。

*ワインを飲むのに飽きると、次は、自転車で運河沿をサイクリング、辺りは、緑豊かな広々とした畑、転々と家が点在、日本で味わったことのない清々しい解放感〔大型クルーズ船にない魅力〕。水門には、可愛い管理人の一軒家があり「猫は木陰で昼寝・・・犬は散歩・・・アヒルは水遊び！！・鳥のさえずり」・・・管理人とお話をする！！（お願いすれば、水門の開け閉めのお手伝いをさせてくれる）・・・静かでのんびりとした昼下がり・・・運河の小型クルーズ船ならではの魅力ですね。

*時として、ユキは、歩く〔散歩〕、その後から、私は自転車(写真資料3)に乗り、付いて行く姿は、「ユキは、なぜ自転車に乗らないのか？・・・聞いてくる＝ユキは、walking is my favorite＝歩く、大好きと答えていた。」外国の夫婦からは、「奇妙“こっけいに観えるようである。文化の違いかな・・・



*ゲスト4組夫婦とクルーは、船を降り、村のカフェ近辺の川沿いの木陰でお茶を飲み一休み。クルーは、川で魚釣り、村人に大きな魚の内臓を採って渡す。村人は喜ぶ長閑な光景の旅である。

*ブルゴーニュのワイナリー〔ぶどう畑・ワイン製造業見学〕で白ワイン試飲・小さな村での昼食とワイン〔ユキは、手ごろなワインを注文・・・後で、食事代付・美味しい高級ワインでも同じと聞かされ“しまった失敗“・・・“残念“・心残りの一杯のワインであった〕を楽しむ見学であった。

*ユキは、運河の流れに沿って、静かに船が進む・船の操縦(写真資料4)をさせてもらい得意満面の笑顔〔“感激“！！“感激“！〕。操縦しながら、川沿いの木立から差し込む日差しが水面に反射して光る「木洩れ日」の景色を楽しんでいる。



* 22時頃、斜陽・薄暗くなった運河の水、残照を浴び、金色の光る影をキラキラ落とす、夕焼けが始まる。ベルエポック船からの「夕焼け」は、日本で見たことのないような夕日、空が淡い朱色に熟し“色に照り映える雲は、マーブル状の淡い色の空へ、とても美しい光景であった。 実際は写真より「色が憂愁を誘い・・・凄じい眺め！」、

* 今回、残念ながら乗れませんでした。希望者は熱気球に乗り「マーブル状の淡い色、夕日」を観ながら、色が「憂愁を誘う」中で、ヨーロッパの古代のお城・町田舎の風景を観る魅力・醍醐味もありですね。

〔最終〕

* 最終日〔7月13日〕：船は、終点 Tanlay に到着する。中世のお城〔〇〇？〕を見学、当時の皇太子殿下〔今の天皇陛下〕の写真が飾られていて、日本とフランスの奥深い歴史異文化交流を感じることができました。

* ゲスト4組8人は、ベルエポックのアルバムに「コメント：それぞれの旅の思い」を記載していました。
・過去のアルバムを観ると「それぞれの国言語で書かれていた」日本語で書かれたものは無く、私達が最初の日本人である。アジアからは、唯一、漢字〔香港人〕で書かれたものがありました。

* アメリカ人夫婦は、これからバカンス1ヶ月休暇でオランダへ向かうとのこと。人生を楽しんでいる様子。日本人も長期バカンス見習うところ大である。

* 小さな島国で、育った日本人、ものの考え方・スケール、小さい・・・小さい・・・日本の常識・世界の非常識を感じさせる「ブルゴーニュの運河クルーズ旅」でした。日本人、もっと多くの異国の人と旅で出会い・交流深め、価値観を共有して、日々人生を楽しむ!“感激!”を望みたいです。

* その他、多くの出来事〔例：パリの地下鉄で子供すりに合う、すられたものを直接返してくれたのは・・・なぜ?? その理由は・・・? ・スーツケースが開かない、壊す?修理不能。・有名な日本老舗店の味、パリ店との大きな違いは?〕・出会い、例：フランス7月14日パリ祭に遭遇!! 昼間、シャンゼリゼ通りからコンコルド広場までの演奏軍事パレードの行進・空はアクロバット演技飛行・パラシュート降下ショーを観る“感激!! 残念なことに「夜の豪華な花火」を知らずに、疲れて、ホテルで爆睡、残念・・・残念・・・夜豪華な花火を見ることが出来ず「心残り“残念”である。

* 帰国後、ゲスト4組の夫婦と何回かメールを交換、ノルウェー人夫婦から「ブルゴーニュの運河クルーズ旅」の丁寧に編集されたフォトブック〔素晴らしい感激写真〕が贈られてきました。12月には、アジア長旅＝バンコク～カンボジア・ベトナム・シンガポール滞在の後、「クルーズ」はミャンマー、マレーシア、インドネシアで乗る予定とのこと。ノルウェーは、寒いのでクリスマスの間、アジアに滞在するとのメールがありました。

〔まとめ〕

* 海の大型クルーズ船の魅力と運河の小型クルーズ船の魅力の違いは、人、それぞれの考え方により異にしますが、私達の運河の小型クルーズ船の魅力は何か?と問われた場合には、今まで、記述した旅の具体的な準備期間・出発・乗船・最終までのコース「困ったこと・感動・失敗」体験、全てが魅力の思い出となりました。

* 下記に「小型クルーズ船の魅力」をまとめました。
・デッキは低層で水に近く、内水面を航行するのでほとんど揺れませので、お酒を飲んでも酔いません。酔ったら船から降りて、散歩しましょう。海の大型クルーズ船では味会えない体験。
・少人数グループで、運河の魅力的な景観〔ヨーロッパの古代のお城・町田舎〕を船上から気軽に楽しめること。
・飽きたら、船から降りて、ヨーロッパの古代のお城・町、田舎を自転車散歩〔古代の時を感じ・歴史・文化・自然をゆったり堪能〕できる魅力があること。
・希望者は熱気球に乗りヨーロッパの古代のお城・町、田舎の風景を観る魅力があること。
・小人数、価値観を共有した異国人と親しくなり、異なる文化を知る魅力もある。
・その他

大型クルーズ船魅了・体験後、飽きたら「運河の小型クルーズ船の魅力」、究極・極上な船の旅を体験・挑戦することをお勧めします。そこから新たな興味と出会いが生まれます。

そして、運河の小型クルーズ船魅力の有志、価値観を共有した仲間と「次の予定は!!・どの方面へ」と、旅の情報交換・交流をしたいですね。

「もう一度、行きたい運河クルーズ旅」：それには、恒産なくして、恒心なし、健康でなければいけません。

楽しい人生80年、「夫婦でのブルゴーニュの運河クルーズ旅」でした

おわり